

シシャモの河川遡上予測について

北海道立総合研究機構
栽培水産試験場

シシャモの河川遡上期について下記のとおり予測を行いました。終漁日決定等の際に参考にいただければ幸いです。

道南太平洋海域のシシャモは産卵期になると、雌の卵巣重量が体重の1/5～1/4に達すると河川へ遡上を開始することが知られています。また例年、予測遡上開始日から数えて2～8日後に河川でのふくべ網調査（さけます・内水面水試）による捕獲ピークがみられています。これらの知見から、水産試験場では平成26年以降、生殖腺重量指数（GSI：卵巣重量÷体重×100）が22に達すると推定される日を遡上開始日、その2～8日後を遡上盛期として予測しています。

平成29年10月5日から10月26日にかけて鶴川沖、日高富浜沖で漁獲されたシシャモ雌（鶴川5回、富浜6回、計1,408尾）の成熟度調査を実施しました。GSIの上昇速度が安定した10月16日以降のデータを用いた結果、GSIが22に達するのは11月4日と推定されました。従って、遡上開始日は11月4日ころ、遡上盛期は11月6日～11月12日ころと予測されます（図1）。

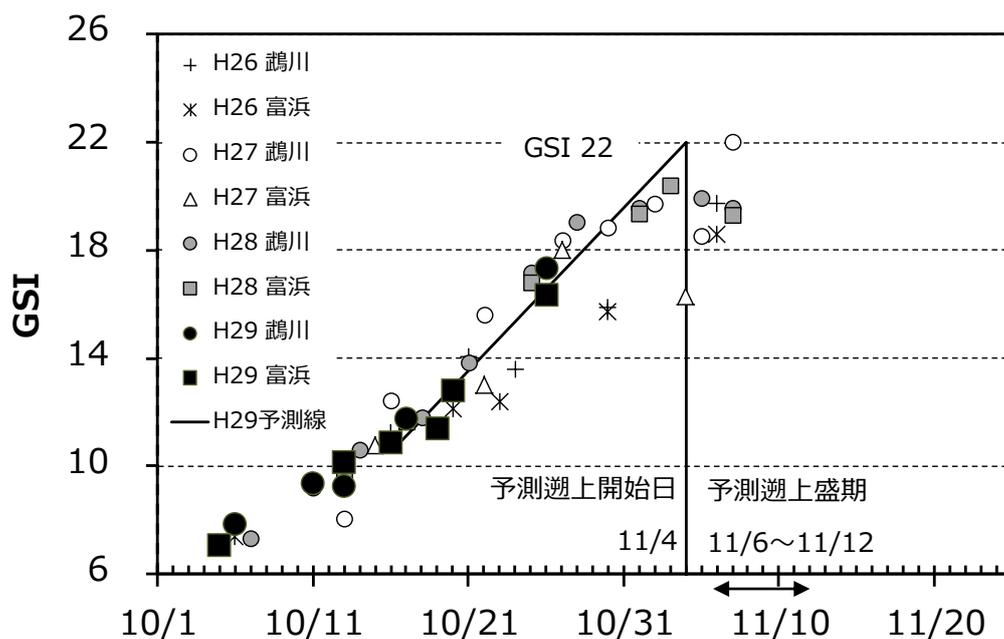


図1 生殖腺重量指数の変化から予測したシシャモの遡上盛期

10月19日時点の漁獲状況から、今年度のシシャモの資源状態は昨年並みに推移していると考えられます(図2)。また、例年GSIの異なる複数の群れが海域に混在しており、今年も同様であると考えられるため、各群の資源量と遡上時期次第では遡上盛期にズレが生じることも予想されます。資源の維持安定のために遡上する産卵親魚を確保するという観点から、遡上盛期前にできるだけ早く終漁することが望ましいと考えられます。**鵜川親魚遡上調査(さけます・内水面水産試験場)**の結果も考慮しながら、終漁日の決定について総合的な判断をお願いいたします。

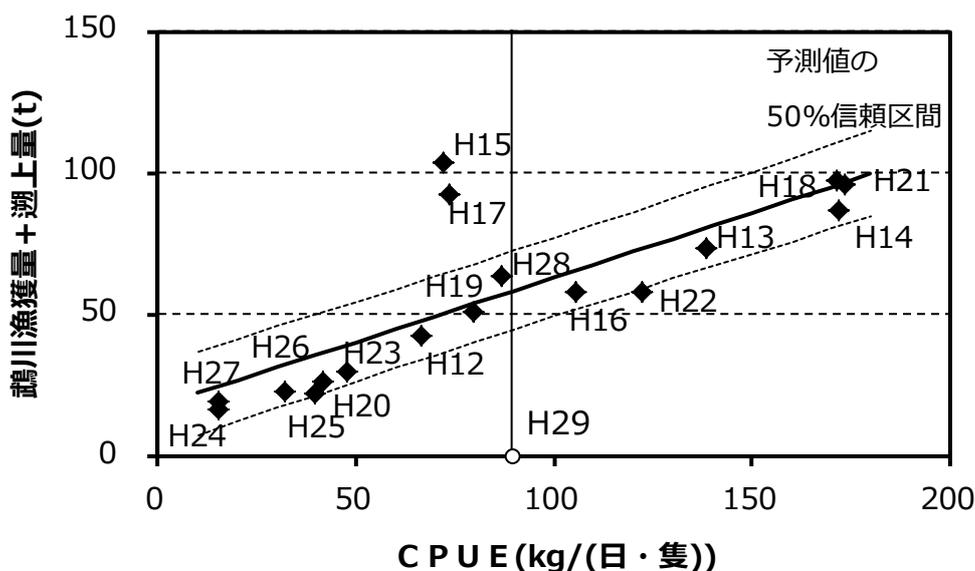


図2 鵜川におけるCPUE(1日1隻あたり漁獲量)と「鵜川漁獲量+遡上量」との関係
CPUEはH29では10月19日まで、H28以前は10月31日までの操業実績で計算

連絡先 0143-22-2327
調査研究部 管理増殖グループ